

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和 5 年 1 月 2 日 5 日に令和 5 年度第 2 回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（令和 6 年 1 月～6 月の見通し）が発表されましたので、その結果等を元に本県海域での予報を報告します。

■ 海 況

黒 潮：A 型基調で推移し、主に伊豆諸島海域の西側を北上する。
（説明）2017 年 8 月に大蛇行になり、6 年が経過しましたが、大蛇行は継続する見通しです。

沿岸水温：相模湾は「平年並」～「高め」で推移し、暖水波及時には「極めて高め」となることがある。
伊豆諸島海域は、概ね「高め」～「極めて高め」で推移する。

（語句説明）平 年 並：平年値±0.5℃程度
高 め：平年値+1.5℃程度
極めて高め：平年値+2.0℃程度

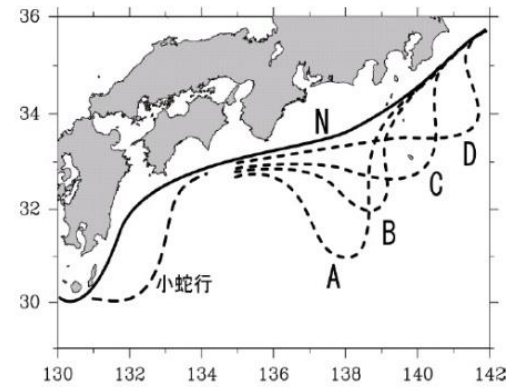


図 黒潮流型の分類

■ さば類（マサバ・ゴマサバ）

来遊量：不漁だった前年並みの低水準で推移する。

（説明）マサバ太平洋系群は、高い資源水準にあると考えられていますが、2024 年 1 月～6 月にも、昨年と同様に黒潮続流が三陸沖まで北上することにより、産卵のための南下が妨げられることが予想されます。一方のゴマサバの資源量は低レベルで推移しており、2023 年 7～12 月の伊豆諸島海域でも、相模湾沿岸の定置網でも漁獲量は少なくなっています。

これらのことから、東京湾～相模湾に 1 月以降来遊するマサバ・ゴマサバが大きく増加する要素は見当たらず、このような厳しい予測となりました。

魚体サイズは、マサバ：尾叉長 33cm（400g）以上は少なく、30cm（300g）以下の割合が増えるでしょう。ゴマサバ：得られた情報が少なく、主体となる魚体サイズの提示は困難です。



■ マイワシ

来遊量：不漁だった前年並。

（説明）本県における 2023 年 7～11 月の主要定置網漁獲量は前年の 56%、平年（過去 5 年平均）の 30% でした。

2024 年 1～4 月は、近年の傾向から被鱗体長 18-21cm 程度の産卵親魚が漁獲の主体となるでしょう。5 月以降は 10-14cm 程度の 1 歳魚が主体となり、後半にかけて 12cm 以下の 0 歳魚が増えてくるでしょう。

マイワシ太平洋系群の資源量は 2010 年以降増加していますが、相模湾への来遊は黒潮流路変動などの海況次第と考えられます。



■ カタクチイワシ

来遊量：不漁である近年並。

（説明）本県における 2023 年 7～11 月の主要定置網漁獲量は前年の 58%、平年（過去 5 年平均）の 18% でした。

2024 年 1～6 月は、近年の傾向から被鱗体長 7-12cm 程度の 0～1 歳魚が漁獲の主体となるでしょう。

カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004 年以降減少しており、依然低水準です。また、黒潮大蛇行が継続している 2018 年以降、主要定置網の 1～6 月漁獲量は 136～355 トンのレベルに留まっています。黒潮大蛇行は今後も継続すると予測されることから、今漁期の漁獲量も不漁である近年並と考えられます。



■ マアジ

来遊量：1 歳魚を主体に前年を上回る。

（説明）東シナ海を発生起源とするマアジ太平洋系群の資源量は近年横ばいです。

2023 年は、下半期のジンダ銘柄を含む当歳魚の漁獲が 8 月～10 月に前年及び平年を大きく上回り、秋季の盛漁期を形成しました。2024 年上半年期は、東シナ海由来のマアジの来遊は例年並と考えられますが、下半期に来遊したマアジ当歳魚が引き続き相模湾内に留まれば漁獲量増につながる事が期待されます。

